

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

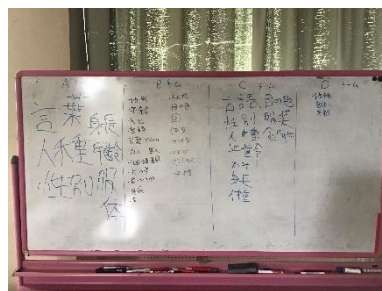
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 宮城県南郷高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ IV ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	宮城県南郷高等学校 ① 授業実践：1学年 18名 ②草花の植栽活動：生徒会役員 11名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② その他 (宮城スタジアムへの草花装飾活動)
4 目標 (ねらい)	スポーツを通して、様々なことに希望を持ち、挑戦する心を養い、地域や社会に貢献する力を育む。
5 取組内容	<p>1. 授業実践① 保健体育：「体育理論」 対象：1年普通科・産業技術科 (主な内容)</p> <p>オリンピックやパラリンピックの歴史から、変貌するオリンピックと諸問題について考え、大会の意義について理解を深めた。また、オリンピックシンボルの意味から違いを越えて社会の中での生き方についてふれ、さらに大会のビジョンである基本コンセプトから多様性、自己の個性・他者との関係性について考えた。</p> <p>① オリンピックシンボルに込められた思い、「違いを越えて互いに理解しよう」ことの意味について意見交換を行った。他者との協働的な学びを通じて社会における人との関係性について理解を深めた。</p> <p>(授業の様子)</p> <p>「違いとは何か」について、個人で考えた後にグループで共有。</p> <p>他グループの考えはホワイトボードに記入後、発表を行い共有した。</p>



② 東京オリンピック・パラリンピック大会のビジョンである基本コンセプトの中から「多様性」を取り上げ、大会中に選手が残した様々な主張から選手の思いをみつめた。また、「ジョハリの窓」を用いて自己分析を行い自己理解を深めるとともに他者との関係性について考えた。

(選手の主張の例 一部)

- ・谷真海選手 公式 Twitter より「みんなちがって みんないい」
- ・レーベン・ソーンダース選手「表彰式で同性愛の差別を抗議」
- ・ローレン・ハッバード選手, トーマス・デーリー選手, ネスティー・ペテシオ選手「性別の多様性を主張」

2. 授業実践②

保健体育：「実技」 対象：1年普通科・産業技術科

(主な内容)

パラリンピック種目の体験学習を行う前に障がいについての理解と配慮を深めることを目的として、日本における障がい者スポーツの歴史や障がいの概念について指導側から説明をした。その後、ブラインドサッカー、シッティングバレー、ボッチャの3競技を体験した。授業後にアンケートも実施した。

(1) 視覚障害とスポーツ

- ・視覚障害の理解 (講義)
- ・コミュニケーションと配慮のポイントについて考える (体験)



アイマスクを使用し全盲の視野の状態を再現。「歩く」「走る」といった複数の課題を設定し、生徒どうして介助を行い、相手にとってより良い声かけや介助の方法を考えた。

(2) ブラインドサッカー (試合映像視聴, 体験 (介助者あり))

東京パラリンピックの試合映像を視聴。競技の特異性、選手の戦いから努力の先にあるものを感じとる。次に専用のボールを使用してのドリブル、シュートなどの難易度の低い課題から挑戦し、対人をつけた課題を体験した。



(3) シットティングバレーボール (試合映像視聴, 体験)

- 東京パラリンピックの映像を視聴。試合の見どころや上半身を使った高い技術力に注目した。
- 難易度の低い課題から挑戦。小グループ内で上半身の使い方について話し合いながら互いの技術について気づき、教え合った。



(4) ボッチャ (ルールや試合の映像視聴, 体験)

- ボッチャの歴史, ルールについて映像を視聴して学んだ。
- ボッチャで使用する道具の説明
- 試合体験: グループに分かれて投げ方や戦術を考えた。



3. 生徒が育てた草花をオリンピックサッカー予選会場に届け, 装飾を行う

参加: 生徒会役員・農業クラブ役員

時期: 花苗の植え作業, 水やり (5月~7月), 装飾 (7月15日)

場所: 宮城スタジアム正門前

(花苗の植え作業の様子)

- デザイン案を元に花の種類を選び, プランターへ苗を植える
- 装飾当日までの管理は担当毎に行った



(装飾活動当日の様子)

- 競技会場まで運び、装飾デザイン案を元に配置場所を決める。



6 主な成果

1. 授業実践①

スポーツの国際交流の歴史を学ぶとともに、オリンピック・パラリンピックの意義や価値について理解を深めることができた。また、生徒は実社会の課題としてとらえることができ、人間関係の中で多様なものの見かたや考え方を大切にすることの意味を深く考えることができた。

(生徒感想より)

- 人それぞれちがいがあってこそ人として生きられるんだと思った。
- みんな違うからこそ助け合えることがわかった。
- どんな違いがあっても、同じ人間。
- みんな違って人それぞれだから、悪口を言わないほうがいい。
- 皆違いがあっている。その違いが社会に活躍できると感じた。
- 相手の人生も、自分の人生も大切に。
- 心の性別が違うからオリンピックに出られないのではなく、選手が選ぶことができるようにさせてあげたいです。

2. 授業実践②

「障がいの概念」や「障がい者スポーツの歴史」を事前に伝えたことで、選手の背景を考え多くの気づきがあった。また体験を通しての学びの深まりにつながった。

体験の中で、思い通りのプレイにつながらず難しいと感じていても、仲間の技能に合わせて話し合いの中でルールを変更したり支援する様子が見られたことから、他者の尊重や努力を尊ぶという本質を生徒が理解できたと考える。

(生徒感想より)

【ブラインドサッカー】

- 視野が制限されている時の工夫では、手をたたく、左右の移動を具体的に伝えることを意識した。
- 物やコーンなどにぶつからないように声かけをしました。
- 足下が見えないので、何かあるかを話してあげた。
- とても難しかったが、声かけと手の音で合図をした。
- なるべく声を出して方向を教えた。

	<p>【シッティングバレー】</p> <ul style="list-style-type: none"> • なかなか動けなくて、ボールが返せなかった。 • とても楽しくできた。 • 使うボールをやわらかいボールに変えた。 • サーブの仕方を変えて、投げる方法も取り入れた。 • 味方にボールをつなぐことが難しかった。 • 考えながらできたので良かった。 <p>(パラリンピックの種目体験学習のアンケートより) 対象：18名</p> <p>① 体験を通じて学んだこと (生徒の文章をそのまま記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> • パラリンピックの種目にも面白い競技があることが分かった。 • 障害者の方でも楽しくスポーツができるということを学びました。 • すごく難しく、簡単にできないことがわかった。 • もしケガをした時でも、できるスポーツがあると思った。 <p>② 学んだことを今後の学校生活や卒業後の生活にどのようにいかしていきたいと思いますか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 助けてあげられるようにする。 • 積極的に助けてあげられるようにしたい。 <p>③ 今後体験してみたいパラリンピック種目はなんですか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 卓球 • 車椅子バスケットボール • どんな種目があるかもっと知りたい。 <p>3. 宮城スタジアムへの草花装飾活動</p> <p>生徒会役員主体で実施した植栽活動では、本校の特色をいかして選手や観客の方を笑顔にしたいという思いをもって、植栽のデザイン、手入れ、装飾を行った。暑い環境でも草花を枯らさずに質を保つためにどのように管理をするべきかを一人一人が考えることができた。複数の生徒が「沢山の方に見ていただけて嬉しい、これからも多くの方に喜んでもらえるような活動をしたい」という感想を述べており、生徒主体の企画運営への関心、意欲の向上、実社会への関わりについて考えを深める活動となった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(授業実践について)</p> <p>オリンピック・パラリンピックの題材が身近なものとして捉えることができるように、生徒への発問やテーマを実社会へ活かすことのできる内容とした。また、選手が実際に主張していた発言や行動について振り返ることができるように、映像機器や新聞記事を活用した。</p> <p>体験学習では、「障がい」という言葉の背景を事前に伝えておくことで、体験を通じた学びが深まるように工夫をした。また、既存のルールに縛られることがないように、仲間同士が楽しくプレイをするために何を工夫すべきかについて声かけを行った。</p> <p>授業実践を考える上で大切にすることは、東京大会以降も授業を継続・発展することであった。特別な道具や場所を設定することなく、授業担当者が変わっても授業に取り入れることができる内容とした。</p> <p>(装飾活動について)</p> <p>装飾デザインやプランターの配置方法は生徒会役員の生徒が主体となって決定し、装飾当日までの草花管理も生徒毎で役割分担をして実施した。</p>

8 主な課題等	<p>本校では本事業が4年目となり、どの学年もオリンピック・パラリンピックの意義を理解し、パラリンピック種目の体験学習も経験しており、体験を通して生徒も他者を理解する行動へつながっている。そのため、今後も継続して実践していきたい。これまで、全校生徒を対象とした事業実践は2年間のみで、その後は学年単位の取り組みとなっていた。教育的な側面を考えると、委員会の活用や行事として取り組み生徒全体で学びを深めたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>来年度以降の実施については、指導側の指導力向上も課題とし、既存の道具を活用し継続・発展をさせたいと考えている。</p>